



人食いバクテリア 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

令和6年6月5日
富山県感染症情報センター
(富山県衛生研究所内)
(0766-56-5431 直通)

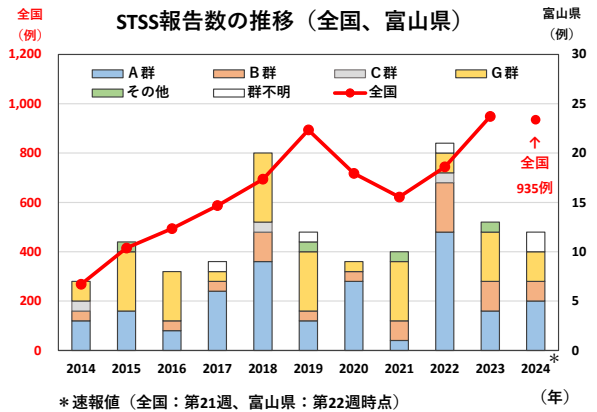
感染症発生動向速報

(令和6年第22週分・5月27日～6月2日)

《インフォメーション》

●劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症(Streptococcal toxic shock syndrome; STSS)の全国の報告数は、2014年以降2019年まで、連続的に増加しました。2020年の新型コロナウイルス感染症の発生後、2021年までSTSSの報告数は一旦減少しましたが、2022年以降再び増加に転じ、2023年には949例が報告されています(図:折れ線グラフ)。また、今年第21週時点で既に935例の報告があり、昨年1年間の報告数に迫っています。



富山県におけるSTSS患者報告数は、近年、7～21例/年で推移しています。2023年の報告数は13例でしたが、今年第22週時点で既に12例が報告されています。過去10年(2014～2023年)の原因菌は、A群溶血性レンサ球菌が42%と最も多く、次いでG群(34%)が分離されています。また、今年報告された12例中5例からA群が分離されています。(図:棒グラフ)。

STSSは通常無菌的な部位(血液、筋肉など)に溶血性レンサ球菌が侵入することで引き起こされる感染症です。感染経路は飛沫感染、接触感染ですので、感染予防策として、手指衛生、咳エチケット、擦り傷などの創部の清潔な処置等を徹底しましょう。

STSSは、小児科定点医療機関で届出されているA群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは重症度がまったく異なります。STSSは発病から病状の進行が非常に急激かつ劇的で、軟部組織壊死、急性腎不全、多臓器不全等を引き起こします。このような特徴から「人食いバクテリア」とも呼ばれています。また、ショック状態に陥り、致命率は30%にも達します。治療は、輸液などの支持療法・全身管理、ペニシリン等の抗菌薬投与を行います。壊死性筋膜炎の場合は広範な外科的な壊死組織の除去、場合によっては四肢切断も検討されます。初期症状である発熱や悪寒、四肢の疼痛や腫脹、創部の発赤などが見られた場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。

《全数報告の感染症》

- 二類感染症 結核 2件 (①第21週診断分:70歳代、男性 ②60歳代、女性)
- 四類感染症 レジオネラ症 1件 (60歳代、男性、肺炎型)
- 五類感染症 梅毒 2件 (①30歳代、男性、早期顕症梅毒Ⅰ期
②50歳代、女性、早期顕症梅毒Ⅱ期)

《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週 (増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	7.00 (↓)	8.62
2位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5.10 (↓)	5.17
3位	COVID-19	3.08 (↓)	3.29
4位	R S ウイルス感染症	1.59 (↓)	2.10
5位	咽頭結膜熱	1.34 (↑)	1.21
6位	手足口病	1.31 (↑)	0.55

富山県感染症情報センターURL: <https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/>

※第9週分以降、URLが変わりました



○感染症発生動向調査報告状況（令和6年第22週 令和6年5月27日～令和6年6月2日）

分類	疾患	今週報告分（第22週）						累積報告数（令和6年第1週（1月1日）～）							
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計		
全数把握	二類感染症	結核				1	1	6	2	17	4	23	52		
		（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く						3	2	8	2	12	27		
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症							1	1	3	5			
	四類感染症	E型肝炎									1	1			
		レジオネラ症					1	1	1	7	1	12	21		
	五類感染症	アメーバ赤痢										2	2		
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症								2		7	9		
		急性脳炎								1		1	2		
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症						1		2	1	8	12		
		後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）									1	2	3		
		侵襲性インフルエンザ菌感染症								1	1	2	4		
		侵襲性髄膜炎菌感染症										1	1		
		侵襲性肺炎球菌感染症						2		1		4	7		
水痘（入院例）							1	1				2			
梅毒						1	1			2	3	5	10		
播種性クリプトコックス症										1	1				
百日咳										1	1				
定点把握（上段：報告数、下段：定点医療機関当たりの報告数）	インフルエンザ／COVID-19定点（48定点）	インフルエンザ				4	4	1,066	1,028	4,030	1,561	5,065	12,750		
		COVID-19	23	8	56	28	33	148	1,180	714	2,204	1,187	1,956	7,241	
	小児科定点（29定点）	RSウイルス感染症	3	2	24	2	15	46	21	47	125	23	166	382	
		咽頭結膜熱	4	10	14		11	39	66	202	556	30	535	1,389	
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	2	66	11	62	148	148	145	2,117	256	922	3,588	
		感染性胃腸炎	21	13	44	7	118	203	537	540	1,197	631	2,735	5,640	
		水痘			3		2	5	1	11	59	8	41	120	
		手足口病	6	10	9		13	38	13	31	35	1	31	111	
		伝染性紅斑									6	1		7	
		突発性発しん			3		8	11	4	9	58	14	49	134	
		ヘルパンギーナ		4			1	2	7	49	4		3	59	
		流行性耳下腺炎					1	1			3	2	4	9	
		眼科定点（7定点）	急性出血性結膜炎										2		2
			流行性角結膜炎			1			1	8	1	24	5	9	47
	基幹定点（5定点）	無菌性髄膜炎										3		3	
		マイコプラズマ肺炎			1			1			5	1		6	
		感染性胃腸炎（ロタウイルス）			1.00			0.20			1			1	
	入院サーベイランス（5定点）	インフルエンザによる入院患者（※1）							21	10	31	48	69	179	
		COVID-19による入院患者	5	2	5	7	4	23	97	98	67	119	299	680	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和5年第36週（9月4日）～の集計です。